

## 事業実施報告書

法人名    特定非営利活動法人スコープ

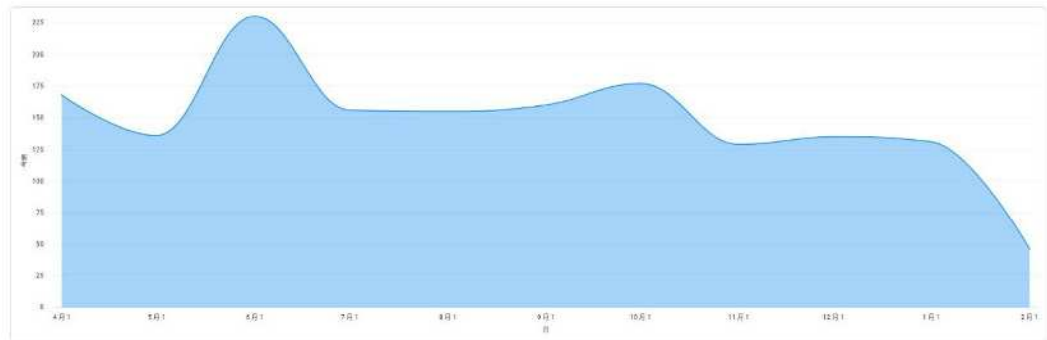
事業名	<b>【keep step】</b> キミと一緒に育つ場所 「学校に行かなくてもみんなで給食が食べられる」事業
助成事業の種類	(1) SDGs 推進事業( <del>人間</del> 豊かさ 地球 平和 パートナーシップ ) (2) 自立促進事業( 人間 豊かさ 地球 平和 パートナーシップ )
1. 事業の目的	<b>Keep step</b> の目的は、応用行動分析学に基づき、不登校児自身が自分の生活をデザインして、再構築することである。具体的な支援は、1 近況確認、2 居場所作り( 飲食提供含む)、3 車による送迎、4 家族支援、を通して、不登校児に生活・社会体験、学習サポートを提供する。
2. 事業で取り組んだ地域や社会の課題	引きこもり、不登校などによる対人交流機関と社会経験機会の喪失を回復し、就学・就職に向けた準備を整える。自己肯定感の向上や自信の回復を図る。
3. 取り組んだ事業の具体的な内容・実施結果	<b>I：近況確認</b> 平日の 8:00～22:00 まで、本人の状態に応じ、LINE でのやり取りを実施。生活状況や悩み事など、気軽に相談できる場所としてした。 <b>II：場所作り</b> <b>A) 児童福祉事業所カラフル：</b> 開始当時は、利用者⇄スタッフという個別対応にて対応。10 月以降は、徐々に利用者⇄利用者という関係が構築され、スタッフ⇄小集団という関りに変化。現在、昼食は、全てスタッフが調理するのではなく、毎週金曜日は、利用者で相談して準備するようになっている。対象児童が増えすぎ、支援が手薄になる傾向が見られたため、1 月以降、新規の受入れを抑える対応を行っている。 <b>B) 学習支援教室：</b> 当初、新規の相談など、10 名近い参加者があったが、新規児童の受入れが苦しくなってきたことにより来談が減少した。また、当初、学習で通っていた利用者もカラフルに来るようになると、徐々に日曜日には、参加しなくなった。 <b>III：送迎サービス</b> ごくまれに、家族が用事の都合上、送迎をしてもらえることもあるが、基本、当団体が送迎を実施した。 <b>IV：家族支援</b> 支援開始時、また、利用が安定するまで、月 1 回程度のペースで面談を実施した。また、突然、「気分が落ち込んだ」「元気がなくて、どうなっているか分からない」という緊急性のある支援依頼に対応を行った。

時期	内容
7月	I : 支援者数 8名 II-A: 稼働日 5日/延べ参加者数 15名 II-B: 稼働日 2日/延べ参加者数 18名 III : 延べ利用者数 98名 IV : 支援家族数 7家族
8月	I : 支援者数 8名 II-A: 稼働日 21日/延べ参加者数 62名 II-B: 稼働日 2日/延べ参加者数 12名 III : 延べ利用者数 58名 IV : 支援家族数 5家族
9月	I : 支援者数 9名 (新規 1名) II-A: 稼働日 21日/延べ参加者数 67名 II-B: 稼働日 2日/延べ参加者数 8名 III : 延べ利用者数 67名 IV : 支援家族数 5家族
10月	I : 支援者数 9名 II-A: 稼働日 21日/延べ参加者数 80名 II-B: 稼働日 2日/延べ参加者数 9名 III : 延べ利用者数 80名 IV : 支援家族数 8家族
11月	I : 支援者数 13名 (新規 4名) II-A: 稼働日 19日/延べ参加者数 111名 II-B: 稼働日 2日/延べ参加者数 5名 III : 延べ利用者数 111名 IV : 支援家族数 8家族
12月	I : 支援者数 14名 (新規 1名) II-A: 稼働日 20日/延べ参加者数 134名 II-B: 稼働日 2日/延べ参加者数 4名 III : 延べ利用者数 134名 IV : 支援家族数 11家族
1月	稼働日数 : 18日 I : 支援者数 14名 II-A: 稼働日 18日/延べ参加者数 131名 II-B: 稼働日 2日/延べ参加者数 2名 III : 延べ利用者数 130名 IV : 支援家族数 11家族
2月	I : 支援者数 14名 II-A: 稼働日 18日/延べ参加者数 95名 II-B: 稼働日 2日/延べ参加者数 3名 III : 延べ利用者数 95名 IV : 支援家族数 11家族

○広報実績について

1. 東部よみうり・第一面（2023年6月19日発行）に、不登校の居場所作り事業を紹介する記事が掲載される。
2. ななサポまつり（2023年9月9日）に出展し、活動の様子が伝わる展示と案内を実施。
3. 東部よみうり・ひと（2023年9月12日発行）に、代表・松永の個人特集記事が掲載される
4. HPのアクセス解析

月ごとの月間ユニークアクセス数は、最低 100 以上ある。地域は、埼玉県・東京都に集中している。流入経路は、子ども食堂ページからが最も高い。企業協賛型で華やかな子ども食堂をきっかけに当団体を知り、学習支援教室や不登校などの相談サービスに気づくという流れになっていると考えられる。



4. 事業実施により達成した成果の具体的な内容

当事業は、23年7月から24年2月までの8か月間、**143日開所し、支援対象者14名に対し、延べ793回の昼食と居場所（5.5人/日）を提供した。**その結果、支援開始前に引きこもりだった利用者**9名のうち、8名が定期的な外出ができるようになり、対人・社会交流を再開させた**（表1参照）。

支援開始から現在までの経過を月別利用回数から分析すると、**トレンドタイプを4つ（安定型、増加型、不安定型、減少型）に分けることができる**（表2参照）。**安定型と増加型は、将来に対する希望が全くないような状態であったが、支援を受けることで、就学や就職、恋愛やおしゃれなど、青年期の発達に不可欠な事柄に対する関心や意欲を取り戻した**（表3参照）。つまり、**本事業は、安定型と増加型には、高い成果を示し、次の発達段階に進むことができる素地を作ることができた**といえる。

一方、**不安定型に対しては、対人・社会交流機会を当事業に限り回復することはできたが、その次のステップを踏み出すまでには、至っていない。**今後の課題として、不安定型は、長期に渡り、当事業に留まり続ける可能性がある。

さらに、**減少型は、そもそも支援が事実上、途絶し、全く成果を上げることができなかつた。**他の支援につながり、生活を改善するきっかけを得られているといいが、そうでなければ、引きこもりや不適応が継続することも考えられる。さらに、当事者にとって、当事業での経験が失敗体験として学習されている可能性も考えられる。今後も、定期的なアフターフォローが必要

である。また、学習支援ニーズが高い傾向もあるので、別途、学習支援に力点を置いた別プロジェクトの必要性もある。

表 1) 支援開始前後の生活状態

	支援前	現在
引きこもり	9	1
学校以外には出かける	3	11
さみだれ登校	2	2
登校しているが、不応	2	0

表 2) 月ごとの利用回数 (個人別データ)

注: 6月1日~7月20日は、助成期間に含まれないが、トレンドを見やすくするため記載している。

	トレンド	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
A	不安定	20	16	0	0	3	8	13	12	3
B	減少	4	3	0	0	0	0	0	0	0
C	不安定	20	16	0	2	2	0	13	12	3
D	増加	3	5	2	3	12	18	20	18	16
E	増加	4	18	20	20	20	17	18	18	18
F	安定	12	12	12	12	12	12	10	11	11
G	安定	7	8	8	8	5	8	7	8	6
H	安定	20	20	20	20	20	20	20	18	18
I	増加				2	6	12	20	18	10
J	安定						3	2	1	1
K	安定						3	2	1	1
M	増加						8	8	14	8
N	減少						2	1	0	0
O	不明							0	0	0
合計		90	98	62	67	80	111	134	131	95

表 3) トレンドごとのインタビュー抜粋

安定型	「もっと早く、こんなところに来たかった」「ずっと、一人で遊んでたから、ここはいろんな人が居て楽しい」「毎日、来たい」「家よりいい」
増加型	「人と話ができるようになった」「もっと遊びに行きたいから、バイトでお金を稼ぎたい」「好きな人ができた」「付き合う人ができた」「ダイエットに成功した」「コンタクト(レンズ)に変えた」「服を買った」「おしゃれが気になる」「洋服を買いに出かけた」「外食に出かけた」「好きなイベントに出かけた」「レポートがギリギリじゃなく終わった」「苦手な電話がかけられるようになった」「絶対食べられないと思っていたものの食べられるようになった」「人生の中で、今が一番楽しい」
不安定型	「ごはんがおいしい」「家より落ち着く」「人が多すぎ」「他に誰もいない方がいい」「もっと静かならいいのに」
減少型	「もっと勉強を教えて(させて)欲しい」「何をしたらいいか分

	<p>からない」「家を出る理由がない」「一人で困ることはないの で、出たくない」「人に会いたくない」</p> <p>表4) トレンドタイプに応じた傾向の分析</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="373 394 528 472">安定型</td> <td data-bbox="528 394 1457 472">学校には不適應だが、社会交流に対するニーズが高い。合う環境があれば、自走ができる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="373 472 528 551">増加型</td> <td data-bbox="528 472 1457 551">内省的で自己完結な傾向があるため、本人の興味に基づく余暇活動の提供で、態度が軟化しやすい。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="373 551 528 752">不安定型</td> <td data-bbox="528 551 1457 752">"不安定型に分類される 2 名は、逆境的小児期体験（<b>Adverse Childhood Experiences, ACE</b>）の項目で4点以上という共通点がある。一般的に、<b>ACE</b> 児の支援は、そうでない児童と比較し、支援が長期に渡り、また成果を出しにくいという特徴がある（三谷はるよ, 2023）。今回支援した 2 名にも同様の傾向が見られた。"</td> </tr> <tr> <td data-bbox="373 752 528 902">減少型</td> <td data-bbox="528 752 1457 902">減少型 2 名と継続支援に繋がらなかった 3 名は、本人・家族のニーズが「学習」に向いているという共通点がある。本事業は、社会交流と居場所作りを中心としたプロジェクトため、ニーズに合致しなかったと考えられる。</td> </tr> </table>	安定型	学校には不適應だが、社会交流に対するニーズが高い。合う環境があれば、自走ができる。	増加型	内省的で自己完結な傾向があるため、本人の興味に基づく余暇活動の提供で、態度が軟化しやすい。	不安定型	"不安定型に分類される 2 名は、逆境的小児期体験（ <b>Adverse Childhood Experiences, ACE</b> ）の項目で4点以上という共通点がある。一般的に、 <b>ACE</b> 児の支援は、そうでない児童と比較し、支援が長期に渡り、また成果を出しにくいという特徴がある（三谷はるよ, 2023）。今回支援した 2 名にも同様の傾向が見られた。"	減少型	減少型 2 名と継続支援に繋がらなかった 3 名は、本人・家族のニーズが「学習」に向いているという共通点がある。本事業は、社会交流と居場所作りを中心としたプロジェクトため、ニーズに合致しなかったと考えられる。
安定型	学校には不適應だが、社会交流に対するニーズが高い。合う環境があれば、自走ができる。								
増加型	内省的で自己完結な傾向があるため、本人の興味に基づく余暇活動の提供で、態度が軟化しやすい。								
不安定型	"不安定型に分類される 2 名は、逆境的小児期体験（ <b>Adverse Childhood Experiences, ACE</b> ）の項目で4点以上という共通点がある。一般的に、 <b>ACE</b> 児の支援は、そうでない児童と比較し、支援が長期に渡り、また成果を出しにくいという特徴がある（三谷はるよ, 2023）。今回支援した 2 名にも同様の傾向が見られた。"								
減少型	減少型 2 名と継続支援に繋がらなかった 3 名は、本人・家族のニーズが「学習」に向いているという共通点がある。本事業は、社会交流と居場所作りを中心としたプロジェクトため、ニーズに合致しなかったと考えられる。								
5. 費用面での工夫	<p>本事業の支援コストは、1 利用者あたり 618 円/日である。本事業の中心は、「人」であるため、スタッフやボランティアを含め、1 日あたり 2~4 人程度を配置した。そのため、費用の内訳では、人件費と謝金が 83%を占めている。しかし、その反面、食材費や消耗品費は、食数の割に、低く抑えることができたと感じている。その理由は、当事業が知られるようになり、定期的に食材を寄付してくれる個人が増えた。特に、米やパスタなどの主食は、一度も購入する必要がなかった。また、季節に応じ、家庭菜園の野菜を近隣住民より寄付を受けることもあった。さらに、お菓子の寄付も定期的であり、一度も購入する必要がなかった。</p>								
6. 地域社会への還元について	<p>引きこもりや不登校の親たちの横のネットワークに情報が共有されるようになり、<u>月 1 件程度の相談が継続</u>している。このような地域に根差した非営利活動団体の活動が地道に知られるようになることは、支援につながりやすくなっていく可能性が広がっていくと考えられる。</p> <p>越谷市教育委員会主催で開催された情報共有会に当団体の活動の情報が届き、招かれた。2月より、<u>当事業への参加を中学校の登校として取り扱い</u>してもらえるようになった。</p>								
7. 来年度以降どう事業を継続し発展させていくか	<p>現在、アルファクラブ武蔵野株式会社の協力により、<u>越谷市内の結婚式場の一角（19 坪）に常設型の学習室を開業させる計画が進捗中</u>である。クラブは、一軒家という家庭的な環境から、「生活」「居心地の良さ」「家みたい」な安心空間が魅力である。しかし、常設型の学習室は、「学習」に取り組みやすい環境を作ること目的としている。今回の事業で、成果を上げることができなかった、不安定型や減少型を対象とした個別プロジェクトを、今後、常設型の学習室を活用することで計画実行していきたい。</p>								

# 事業収支計算書

法人名 特定非営利活動法人スコップ

## 1 収入の部

項目	予算額 (円) A	決算額 (円) B	増減額 (円) B-A	備考
県助成希望額	500,000	489,000	-11,000	
自己資金	194,980	1,722	-193,258	
事業実施による収入等	0	0	0	
その他	0	0	0	
合計	694,980	490,722	-204,258	489,272

## 2 支出の部

項目	予算額 (円) A	決算額 (円) B	増減額 (円) B-A	備考
会場費	0	0	0	
通信運搬費	3,680	0	-3,680	
旅費交通費	14,000	3,500	-10,500	
消耗品費	60,000	74,172	14,172	
備品費	0	0	0	
委託費	4,000	0	-4,000	
謝金	280,000	174,000	-106,000	
人件費	333,300	237,600	-95,700	
その他	0	1,450	1,450	※予算項目外のため対象外
合計	694,980	490,722	-204,258	